

第7回社会貢献型インターンシップ 「クラダシチャレンジ」in 鹿児島県西之表市



Today's
Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

8日間のスケジュール

#03

記録

#04

参加者の声

#05

総括



#1. クラダシチャレンジとは

第7回社会貢献型インターンシップ 「クラダシチャレンジ」in 鹿児島県西之表市

■活動内容:① 鹿児島県西之表市の農園にて農作物(玉ねぎや安納芋)を収穫・選果

② 製糖工場の見学

■開催期間:2021年3月22日～4月5日

■参加人数:大学生8人

※第1班・第2班(各4名)の開催は緊急事態宣言延長に伴い中止

■実施企業:株式会社クラダシ(クラダシ基金にて運営)



クラダシ基金： 地方創生事業

人手不足で収穫できない農家に学生をインターンシップとして送ることで、一次産品の未収穫廃棄品をレスキュー。収穫できた農作物をKURADASHIで販売し、支援金が増えることで人手不足によって未収穫となる残りをさらに減らすことが出来るエコシステム。クラダシチャレンジは鹿児島県の種子島・与論島・西之表市、香川県的小豆島、高知県の北川村にて計7回実施。

得られるメリット

- ・ 地方労働力の提供

クラダシチャレンジ（インターン）
により学生派遣

- ・ 学生の食育や
フードロスの削減

フードロス削減に意識の高い学生の
食育・体験

- ・ 収穫商品の再流通

学生の収穫した商品をKURADASHIで
流通（農家の収益増加）





【西之表市とは】

西之表市は鹿児島県の種子島に位置する市であり、日本最南端の氏族である種子島家の城下町として栄えていた歴史があります。

安納芋や玉ねぎなどの特産品や歴史、自然などの観光資源があります。第一次産業が盛んで、食料自給率は100%を超えるなど観光資源の他にも魅力があります。

しかし総人口が約1600人と深刻な人口減少の問題を抱えており、若年層の労働力を確保し、主幹産業である農業従事者の急速な減少・高齢化について解決することが必要不可欠となっています。

【社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは】

クラダシでは、地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での収穫支援を通し、地域課題やフードロス問題について考える社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」を実施しています。

参加学生の旅費交通費や宿泊費、食費などは、地域経済の活性化と社会発展に寄与するため設立した、「**クラダシ基金**」から支援しています。



①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。鹿児島県西之表市で生産されているさつまいもや玉ねぎの収穫や選果には時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで**未収穫による一次製品のフードロスが解決される**と同時に、農家さんの新たな収益を獲得することができます。

②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前の風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇りを持つことができます。**そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます。**

③地元の特産品の購買促進に

西之表市が位置する種子島には、安納芋や玉ねぎなどの他にも、種子島宇宙センターなど様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加を図ることができます。**



#2. 8日間のスケジュール

3/22-3/29
(大学生4名)



8日間のスケジュール

8日間のスケジュール①(Day1-4)

<Day1>

5:15-12:00 池尻→種子島
 12:00-14:00 ランチ
 散策
 14:00-16:00 鉄砲館 展望台
 18:00-22:00 歓迎会
 22:00-22:45 日報

<Day2>

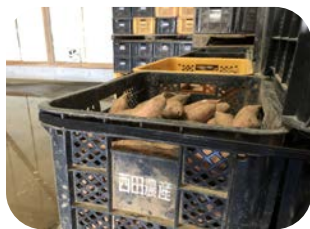
6:30-7:00 朝食
 7:00-7:30 移動・朝礼
 7:30-8:00 工場に移動
 8:00-12:00 午前作業
 (玉ねぎのサイズ選果)
 12:00-13:00 ランチ
 13:00-16:30 午後作業
 (安納芋の皮むき)
 (袋詰め)
 16:30-17:00 工場見学
 17:00-17:20 宿に帰還
 18:30-19:00 夕飯
 20:00-22:00 海岸散歩

<Day3>

6:30-7:00 朝食
 7:00-7:30 移動・朝礼
 7:30-8:00 農園に移動
 8:00-12:00 午前作業
 (玉ねぎ収穫)
 12:00-13:00 ランチ
 13:00-17:00 午後作業
 (安納芋ペースト製造
 の手伝い)
 18:30-19:00 夕飯
 19:00-22:00 自由時間

<Day4>

6:30-7:00 朝食
 7:00-7:30 移動・朝礼
 7:30-8:30 新光糖業に移動
 8:30-11:00 工場見学
 11:00-12:00 ゼウス帰還
 12:00-13:00 ランチ
 13:00-17:00 午後作業
 (安納芋洗浄)
 17:00-18:30 シャワー洗濯
 18:30- 夕飯、諸々



8日間のスケジュール①(Day5-8)

<Day5>

6:30-7:00 朝食
7:00-7:30 移動朝礼
8:00-12:00 午前作業
(ペースト)
12:00-13:00 ランチ
13:00-16:30 午後作業
17:00-17:30 市長訪問
18:30-19:00 夕飯

<Day6>

6:30-7:00 朝食
7:00-7:30 移動朝礼
8:00-12:00 午前作業
(ダイスカットピー
ラー)
12:00-13:00 ランチ
13:00-17:00 午後作業
(ダイスカットピー
ラー)
18:45- 夕飯
19:30- カラオケ
@税酢ビーチパーク

<Day7>

7:00-8:00 朝食
8:00-16:30 観光
(アコウ、そてつ、
宇宙センター、
お好み焼き、
ビーチ)
18:00-22:00 西田邸歓送会

<Day8>

6:30-7:00 朝食
7:00-7:30 移動朝礼
8:00-12:00 午前作業
(芋洗い)
12:00-13:00 ランチ
13:00-16:30 チェックアウト
自由時間
18:00-23:00 帰宅



3/28-4/6
(大学生4名)



8日間のスケジュール

8日間のスケジュール②(Day1-4)

<Day1>

13:20-15:15 東京→鹿児島
16:50-17:30 鹿児島→種子島
17:30-18:00 ゼウスハウスへ
19:30-20:30 夕食
(ゼウスハウス)



<Day2>

5:30 起床
6:30 朝食
7:15 宿出発
7:30 ラジオ体操
8:00-10:00 作業
(安納芋の皮むき)
10:00-10:30(休憩)
10:30-12:00 作業
(ダイスカット)
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 作業
(ダイスカット)
15:00-15:30(休憩)
15:30-18:00 作業
(安納芋の皮むき)
18:30-19:30 海岸を散歩
19:30-21:30 BBQ

<Day3>

5:30 起床
6:30 朝食
7:15 宿出発
7:30 ラジオ体操
8:00-10:00 作業
(輪切りにした芋の選別)
10:00-10:30(休憩)
10:30-12:00 作業
(ダイスカット)
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 作業
(輪切りにした芋の選別)
15:00-15:30(休憩)
15:30-18:00 作業
(安納芋の皮むき)
18:30-19:30 海岸を散歩
キャッチボール
19:30-21:30 夕食
(ゼウスハウス)

<Day4>

6:00 起床
6:30 朝食
7:15 宿出発
7:30 ラジオ体操
8:00-10:00 作業
10:00-10:30(休憩)
10:30-12:00 作業
12:00-14:00 昼食
(ゼウスハウス)
15:00-17:00 新光糖業工場見学
17:00-18:00 移動兼市街地見学
18:30-19:30 夕食
(ゼウスハウス)



8日間のスケジュール②(Day5-7)

<Day5>

5:30 起床
6:30 朝食
7:15 宿出発
7:30 ラジオ体操
7:30-8:00 玉ねぎ選果場の見学
8:30-10:00 作業
10:00-10:30(休憩)
10:30-12:00 作業
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 作業
15:00-15:30(休憩)
15:30-16:30 作業
17:00-17:30 市長面会
感謝状授与式
18:00-18:30 関藤社長と談話
18:30-20:00 夕食
(ゼウスハウス)

<Day6>

5:30 起床
6:30 朝食
7:15 宿出発
7:30 ラジオ体操
8:00-10:00 作業
(芋の皮むき)
10:00-10:30(休憩)
10:30-12:00 作業
(ペースト用カット)
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 作業
15:00-15:30(休憩)
15:30-16:30 作業
17:00-17:30 散歩
18:00-24:00 送迎会

<Day7>

7:00 起床
7:30 朝食
8:00-17:00 種子島観光
(鉄砲館
→天女ヶ浦展望台
→昼食
→マングローブ
→千座の岩屋
→宇宙センター
→門倉岬
→大ソテツ)
18:00-18:30 種子島→鹿児島
20:30-22:15 鹿児島→羽田



#3. 記録

1. 玉ねぎのサイズ選果・選果工場見学・収穫



玉ねぎの選果作業に参加して、普段見ていた玉ねぎと違いがあることに驚いた。聞けば運んでいる途中に色や形が変化するそうで、実際に足を運ばないとわからないことがやはりあるものだと感じた。

選果工場を観察し、すべての工程が手作業ではなく、特製の機械で行われていることを知った。サイズによる分類も、穴の大きさに自動的に決まるように驚いた。



2. 新光糖業工場見学



毎日食べている砂糖がどのように作られているのか、考えたこともなかった。その工程はすごく興味深く、たくさんの工夫がされていることに驚いた。さとうきびは商品作物としては利益が出にくい、離島のため輸送コストが高く台風もくる種子島はさとうきびにこだわっていることを知った。しかし、栽培農家数、面積、単位あたりの収量ともに減少しているようだ。

製造過程で出るバガスやケーキ、蜜はエネルギー源や家畜の飼料として繰り返し再利用されていた。砂糖はそのままだと外国産の安価な輸入品に太刀打ちできないので高い関税をかけて国が手厚く保護しているを知った。

新光糖業の見学では、様々な設備を見ることができた。サトウキビを次々に運び込むトラックの列は圧巻で、工場の規模の大きさがうかがえた。一つ一つの工程を丁寧に説明していただいたり、生成途中の蜜を味見させていただいたりして充実した時間を過ごせた。

出来上がってきた砂糖しか知らなかったが、生産者は砂糖や農産物がどのようにできるのか、最初から最後までを知っていると再認識させられた。

サトウキビの買い上げ値段の6割くらいが国からの交付金ということに驚いた。



3. 安納芋洗浄・皮むき・輪切りにした芋の選別



今日はベルトコンベアで流れてくる安納芋から腐った物を取り除き、へたを手で折って、サイズごとに仕分ける作業だった。芋洗い作業では、全身びしょ濡れになりながら泳ぐように芋を洗った。

安納芋を使ったグラッセというお菓子の製造工場へ出向き、ピーラーで皮の黒くなっている部分を剥き、量がたまるとベルトコンベアで一連の作業を分業して行った。皮むきや、流れてくるカットされた芋をシャワーで洗いながら小さいものを格子から落とす作業などを分担して行った。

作業自体は難しくないが、芋の量と流れ作業のプレッシャー、同じ姿勢で続けることがとても大変だった。
この職場で印象的だったことは0時と15時のお茶の時間が充実していること。すごく良いなと感動した。



ダイスカットピーラー・ペースト作り・輪切りにした芋の選別



今日は、ピーラーで腐った部分やさつまいもの皮の変色した部分を除く作業と、その後機械でダイスカットされたさつまいもの中で小さい切り落としを省く作業をした。

単純作業だったがスピードが求められた。最初のうちは慣れない作業でおぼつかなかったが、ずっとやっているうちにコツを掴めてきて、戦力になれていたように思う。

ペースト用の芋を選別する作業をした。大きな芋はダイスカットに、小さくて整った芋はそのまま商品として出荷されるので、小さくて不揃いなものがペーストになる。このように余すことなく商品として使うのは良いことだと思った。屋外の作業で包丁で端を切り落とす作業だったので作業自体はいつもの作業より容易だった。



4. 市長面会感謝状授与式



作業が終わった後には、市長から直々に感謝状をいただいた。

地元の新聞に掲載していただけるような誇らしい活動に参加できたことを嬉しく思うと同時に、残りの日数後悔しないように出し切らないといけないと身が引き締まった。



西之表市長からは労いと応援の言葉をいただいた。市長室で感謝状の贈呈なんてこれまで体験したことがなく、貴重な経験になった。

市役所で市長から直々に感謝状をいただき地元紙の取材を受けたことで、この体験をいつか種子島に還元したいという思いが強くなった。



5. 西田農産の西田さんとの出会い



「今を生きるんじゃなくて明日を生きる。そうすると今をきちんと生きなきゃいけないってくる。」という西田社長の言葉が印象的だった。

また、西田農産の方とお話したことで、西田副社長が言っていた、都市に住んでいては「見えていないサイクル」を自分の中で可視化したいと思った。

今日を生きることとは誰でもできる。だから明日を生きろ。明日を生きるために、まずは今日を生きろ。今日だけに意識を向けるのではダメってこと。心はエイティーン西田さんの話を聞いて泣きそうになった。

西田農産の大きさが凄い。種子島の規模に対する会社の規模と責任が大きすぎる。社長はどんな使命感、責任感でお仕事をなさっているのだろう

6. 技能実習生との出会い



ベトナム人のティーさんと話した。日本語が上手で、休憩中も日本語の本を読んで勉強していた5年種子島にいて、母国に帰ったら日本語の教師になりたいそう。夢を応援したいと思った。西田農産には中国から来た夫婦組もいらっしやるそう。彼女たちの地元での1年分の給料が西田農産での1ヶ月分だという。こんな現実があるのかと思った。だから、実習生たちは休みも惜しまず働く。残業も喜んでするそう。



休憩時間にベトナムから技能実習に来ているリンちゃんと話したのが印象的だった。リンちゃんは私たちと同120歳で、ハノイの北部が出身。ここでの実習が終わったら日本で会社に就職するらしい。日本語試験でN1に合格するとベトナムにある日系企業で働けるみたいで、休憩時間にいつも勉強している。初めて試験問題を見せてもらった。農業は大変、という言葉は何度も口にしていて、こんな思いをさせていることに悲しくなった。



7.宇宙センター・鉄砲館



宇宙について無知である私だったが、漠然と興味があったので、資料をたくさん読んでいたらタイムアウトで最後の方はじっくりと見れなかった。でも、知らなかったことをたくさん知れたし、地球の存在に感動した。

世間一般の種子島に対するイメージとして、おそらく「宇宙センター」や「鉄砲伝来の地」が主であり、美しいだけでなくサーフィンなどの体験もできるビーチがあることはあまり知られていないのではないだろうか？島へのアクセスが悪いというディスアドバンテージを補ってありあまるポテンシャルがそこにあると感じたので、どうこの魅力を発信すれば観光客の増加へとつなげられるのか考えたいと感じた。



#4. 参加者の声



#見るということ

歓迎会の時に博一さんがおっしゃっていた、一番愚かなことは見ないことだ、というのがずっと心に残っていた8日間でした。

今ではインターネットやグローバル化、輸送の高速化によってどんな場所にも日本中、世界中の情報に触れられ、ものを買え、食べ物を楽しむことができます。それによって僕たちは様々なものを経験し、知っているかのように浮かれています。全ての生産物や情報、食料の裏にはたくさんの人々の人生が何層にも重なっていることを見ようとしていないことに改めて気づきました。

時にそのような裏の事情のようなものを知ることは苦痛かもしれませんが、見えないものを見ようとし、考えられていないものを考えようとする努力は続けなければならないと感じます。

種子島で過ごした8日間は、大学4年生になる前に、もう一度目を開かせてくれたような気がしました。

上村幸平

自然と共存する種子島で学んだこと

種子島の自然と触れ合っていると、自分の原点と触れ合えているような気がしました。手付かずの自然には触れ合うことのない都では絶対に味わえない感情です。私はそれがとても好きです。

種子島の人々は、自然をうまく利用しながら農作物を生産し、廃棄物は肥料等に再利用する。開発により自然を傷つけてしまう葛藤もとても伝わってきました。種子島で学んだことは数え切れないほどありますが、特に私は、作業場での光景が忘れられられません。60、70を超えたおばちゃんおじちゃんたちが働いている姿を ...。たくさんの人の支えがあって、日々の食卓が飾られていることを心に刻みました。

人と人の繋がりを大切にする西之表市の皆さんに受け入れてもらったことを本当に感謝しています。

鈴木祐奈





#頭で考えるんじゃない。行動だ

今回、種子島にきて学んだこと。それは、頭で考えるのではなく、まずは行動してみることです。地方創生、農業、若者不足……。もちろん授業で習いました。今、日本ではこれらの問題が深刻だということは頭では分かっていたいました。でも、身体が、心が分かかっていませんでした。

実際種子島に来て、優しいおっちゃんおばちゃん、魅力溢れる技能実習生の方と一緒に現場で働いてみて、若者が足りてないとはこういうことなのだと実感しました。

綺麗すぎる海と空気と木々に囲まれて生活をする中で、なんで東京っていう狭い土地にあんなに人が集まる必要があるのだろうか。絶対種子島みたいに自然に囲まれたのびのびとした空間で生きた方が人間らしい生活ができるのにな。と心から感じました。

椅子に行儀よく座って座学で社会を学ぶのも大事ですが、本当に社会を知り、自分と社会の関わり方を見つけるためには、やはり行動し、自分の目で見て触れて感じる事が大事だと心の底から思いました。

松井唯奈

#はじめての種子島

離れた場所に行って仕事を手伝い、ご飯をご馳走になって観光名所に連れて行ってもらうという体験そのものが初めてでした。

目にするもの触れるもの全てが自分にとって新鮮で、刺激的な一週間を過ごせたと思います。東京では見ることのできない見渡す限りの大海原や、仕事の休憩時間に寝転んだ芝生の土の匂い、お世話になった西田農産さんとゼウスハウスさんの方々の温かいおもてなしなど、たくさんのことを経験しました。

しかし、移動や歓迎会などで今回案内してもらった西田さんが強調したのは、種子島の産業に存在する「資源のサイクル」でした。本来なら産業廃棄物として処理されてしまうサトウキビの搾りかすを、種子島の農業・糖業・畜産企業が連携することにより、できる限りゴミを少なくする取り組みが行われています。

今回のクラダシチャレンジを通し、持続可能社会の実現に向けては、異業種間の協力が大切ということを学びました。

山口功貴





#離島で過ごした貴重な1週間

前回、高知県北川町での活動に参加し、今回で 2度目の挑戦となりました。何度参加しても新しい発見があることがクラチャレの良いところです。

今回は、食品生産過程の中の1つである加工現場で仕事をしました。加工現場に籠もり、毎日8時間ほど安納芋に向き合った時間は今では良い思い出ですが、肉体的にも精神的にも大変な作業でした。私達が普段食べているものは、生産者の方・加工現場の方・物流関係の方など多くの人の思い、努力や苦労が積み重なって出来ているものだと実感しました。

クラチャレの良さの1つは、「普段体験できない環境に身を置くこと」が出来ることだと思います。働く場所・関わる人が普段の生活と異なる非日常体験は、価値観を広げ、多くの学びになるでしょう。また、色んな立場に実際に立って、物事を多角的な視点で考える経験は、社会で働く上でも非常に役立つ経験になると思います。

須賀 渉大



#学びと感謝のその先へ

地方の抱える課題、都市にはない魅力。そんなものを自分の五感で体験し発信したいと思い、クラダンチャレンジに参加させていただきました。

実際に西之表市で1週間を過ごしてみて、就職口の少なさ故に若い世代が島から流出し、農業が人手不足に陥っているというような現状を目にした一方、それを何とかしようと奮闘されている方の声をたくさん聞くことができました。また西之表市で出会った美しい風景や美味しい食べ物、澄んだ空気は今でも忘れられません。

クラダンチャレンジでは、ただ地方に滞在するだけではなくそこで食料生産の現場に本格的に携わる経験ができます。私はさつまいもの加工を通して、社会に流通する食料がここまで長い過程と重労働を経て私たちのもとに届けられていることを初めて知りました。頭では知っていても、それに自ら従事したのとしていないのとは大きな差があります。私たちがさつまいものお菓子を楽しむために、定年後の高齢の方々が腰を痛めながら、私たちと歳が変わらない技能実習生たちが親元を離れ勉学に励みながら、日々働いていました。そのことに深く感謝するのはもちろん、「ありがとう」で終わらせるのではなく、あのとき感じた変えられないもどかしさを決して忘れずに、今後の社会を担う私たちが食料生産のあり方や食料消費のあり方について考え行動し続けていきたいと思います。そして将来、直接的であれ間接的であれ、このような大切な学びを下さった西之表市に還元していきたいです。

北川鈴乃

#初めての連続だった1週間

クラダシが取り組んでいる、「地方創生」・「フードロス」という言葉は社会課題として近年飛び交うものとして何度も耳にしたことはありました。でもどこか、自分事として捉えることはできなくて、そんな問題もあるんだと頭の片隅にある程度のことでした。そんな軽い私の意識を、1週間の種子島での活動は180度変えてくれました。

1週間取り組んださつまいも加工の作業を通して、私たち消費者に食料が届くまでの過程の長さ、少しでもいい状態でという細かいところまで行き届いた"プロ"の配慮を実感することができました。また、農家の生の声を聞くことで作物にかける生産者の想いを知れる機会ともなりました。

初めてに触れることで改めて感じさせられる当たり前ではない有難さと、違った視点から見ることで得られる新たな気づきが私の意識を変えるきっかけとなりました。日常の中の非日常体験、初めてに溢れた1週間は何事にも代えがたい経験で、今後も活かせるものとなりました。生産者の想いを胸に、食に感謝するという当たり前だけれど身近なことから取り組んでいきたいです。

八木亜未



#オンラインでは決して得られない瞬間

地方の農家が感じている課題を知りたい。その問題や課題感を他地域ではどのように生かせるのか考えたい。祖父母が農家で身近に感じている地方の農業を違う観点から体感したい。そんな思いでクラダシチャレンジに参加させていただきました。

結論、そこまで大きな課題の特定やその解決策がすぐに見つかったとは言えないかなとは思います。しかし、それ以上に得られたものがたくさんありました。加工工場で6日間働く中で、そこで働く現地の方の想いや考えを知り、離島ならではの空気感を肌で味わうことができました。また地方の農業がいかにこれからの未来を作っていくのかのヒントが得られたような気がします。それには農業という世界だけでなく、地域との繋がりなど調べるだけでは知り得ないものが重要であると痛感しました。

クラダシチャレンジの最大の魅力は、何より長期間新しい空間に身を置き、五感で感じる点だと思えます。そこから得られるものは人それぞれかもしれませんが、今後生きていく上できっとプラスになる経験や感覚が得られる機会だと強く感じています。

橘川洋人



#5. 総括

クラダシ基金 は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために建てられました。

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 は、学生を地方農家に派遣し、学生と地方農家を繋ぐエコシステムを実現し、地域経済の活性化とフードロス削減を図ってまいります。

- ・**活動中** | 未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生の派遣により町に活気をもたらし、地域の魅力を SNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。
- ・**活動後** | 学生が自治体や農家の方 1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

株式会社クラダシは、西之表市以外の自治体でも支援を引き続き行なってまいります。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」の運営

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

URL

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)